

社会福祉法人つつじ会
特別養護老人ホーム つつじの郷
(指定(介護予防)短期入所生活介護事業所)
運 営 規 程

『 目 次 』	
第1章 事業所の目的及び運営の方針	3
第1条 (事業の目的)	3
第2条 (運営の方針)	3
第3条 (施設の名所及び所在等)	3
第2章 職員の職種、員数及び職務の内容	3
第4条 (職員の職種、員数及び職務内容)	3
第3章 利用定員	4
第5条 (利用者の定員)	4
第4章 設備及び備品等	4
第6条 (居室)	4
第7条 (共同生活)	4
第8条 (浴室)	4
第9条 (洗面所及び便所)	4
第5章 契約及び運営	5
第10条 (内容及び手続の説明並びに同意及び契約)	5
第11条 (受給資格等の確認)	5
第12条 (入退所)	5
第6章 サービス	5
第13条 (地域密着型施設サービス計画の作成)	5
第14条 (サービスの取り扱い方針)	6
第15条 (介護の内容)	6
第16条 (食事の提供)	7
第17条 (相談及び援助)	7
第18条 (社会生活上の便宜の供与等)	7
第19条 (機能訓練)	7
第20条 (健康管理)	7
第21条 (入所者の入院期間中の取り扱い)	7
第22条 (利用料及びその他の費用)	7
第23条 (利用料の変更等)	8
第7章 留意事項	8
第24条 (日課の励行)	8
第25条 (面会時間と消灯時間)	8
第26条 (喫煙)	9
第27条 (飲酒)	9
第28条 (外出及び外泊)	9
第29条 (健康保持)	9
第30条 (衛生保持)	9
第31条 (禁止行為)	9
第32条 (入居者に関する市町村への通知)	9
第8章 職員の服務規程と質の確保	9
第33条 (職員の服務規程)	9
第34条 (衛生管理)	9
第35条 (職員の質の確保)	10
第36条 (個人情報の保護)	10
第9章 緊急時、非常時の対応	10
第37条 (緊急時の対応)	10
第38条 (事故発生時の対応)	10
第39条 (非常災害対策)	11
第40条 (業務継続計画の策定等)	11
第10章 その他	11
第41条 (地域との連携)	11
第42条 (勤務体制等)	11
第43条 (記録の整備)	11
第44条 (苦情処理)	12
第45条 (協力医療機関等)	12
第46条 (掲示)	12
第47条 (居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止)	12
第48条 (身体拘束)	12
第49条 (虐待の防止のための措置に関する事項)	13
第50条 (ハラスメント防止)	13
第51条 (その他)	12

**特別養護老人ホーム つつじの郷
指定（介護予防）短期入所生活介護事業所 運営規程
第1章 事業の目的と運営の方針**

第 1 条（事業の目的）

社会福祉法人つつじ会が開設する特別養護老人ホームつつじの郷（以下、「施設」という。）が行う指定短期入所生活介護事業所及び指定介護予防短期入所生活介護事業所の適正な運営を確保するために、人員及び管理運営に関する事項を定め、施設の職員等（以下、「職員」という。）が、要介護状態（介護予防にあっては要支援状態）にある入所者（以下、「入所者」という）に対し、適正なサービスを提供することを目的とします。

第 2 条（運営の方針）

施設は、要介護状態と認定された入所者に対し、介護保険法等の主旨に沿って、入所者の意思及び人格を尊重し、施設サービスに基づき、可能な限り居宅での生活への復帰を念頭におき、かつ常に入所者の立場に立ってサービスを提供することにより、入所者がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことを支援することを目指すものとします。

2 施設は、地域や家庭との結び付きを重視した運営を行い、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとします。

第 3 条（施設の名称及び所在地等）

施設の名称及び所在地は、次のとおりとします。

- (1) 名 称 特別養護老人ホームつつじの郷
(特別養護老人ホームアゼイリアを本体施設としたサテライト型)
- (2) 所在地 宮城県石巻市蛇田字小斎 9 番地 3

第2章 職員の職種、員数及び職務の内容

第 4 条（職員の職種、員数及び職務内容）

施設に勤務する職員の職種、員数及び職務内容は次のとおりとします。

- (1) 施設長 1名
施設の職員の管理、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行います。
- (2) 医師 1名
入所者の診療・健康管理及び保健衛生指導を行います。
- (3) 生活相談員 1名以上
入所者の生活相談、苦情への対応、処遇の企画や実施等を行います。
- (4) 介護支援専門員 1名以上

施設サービス介護計画の作成等を行います。

- (5) 介護職員 9名以上（常勤換算方法）
入所者の日常生活全般にわたる介護業務を行います。
- (6) 看護職員 1名以上（常勤換算方法）
入所者の保健衛生管理及び看護業務を行います。
- (7) 機能訓練指導員 1名（本体施設と兼務）
日常生活を営むのに必要な機能を改善し、又はその減退を防止するための訓練を行います。
- (8) 管理栄養士（栄養士） 1名以上
食事の献立作成、栄養計算、入所者に対する栄養指導等を行います。
- (9) 調理員 1名以上
入所者の食事提供等の調理業務を行います。

2 前項に定める職員のほか、必要に応じてその他の職員を置くことができるものとする。

第3章 利用定員

第5条（入所者の定員）

施設に入所できる入所者の定員は29名とし、災害等やむを得ない場合を除いて、入所定員及び居室の定員を超えて入所することはできません。

- (1) ユニット数 3ユニット
- (2) ユニットごとの入居定員 いこいの里： 9名
ひなたの里： 10名
ひよりの里： 10名

2 前項に規定する特別養護老人ホームの空床を使用して、指定短期入所生活介護事業及び指定介護予防短期入所生活介護事業を行なうものとする。

第4章 設備及び備品等

第6条（居室）

施設は、入所者の居室に、ベッド・家具・ナースコール等を備品として備えています。

第7条（共同生活室）

食事と団らんと機能訓練を行う場として、必要な備品類を備えています。

第8条（浴室）

施設は、各ユニット内に浴室を設置、また要介助者のための特殊浴槽を設けています。

第9条（洗面所及び便所）

施設は、各居室に洗面所を設けて、また各所に便所を3～4か所設けています。

第5章 契約及び運営

第10条 (内容及び手続きの説明並びに同意及び契約)

施設は、サービス提供の開始に際して、入所申込者又はその家族に対して、運営規程の概要、従業者の勤務体制、その他サービスの選択に資する重要事項を記した文書を交付し説明を行い、同意を得た上で契約書を締結します。

第11条 (受給資格等の確認)

施設は、サービスの利用を希望する者が提示する被保険者証により、被保険者資格・要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確認します。

第12条 (入退所)

施設は、身体上又は精神上の著しい障害があるために常時の介護を必要とし、かつ居宅において常時の介護を受けることが困難な者に対してサービスを提供します。

- 2 施設は、正当な理由なくサービスの提供を拒否しません。
- 3 施設は、入所申込者が入院治療を必要とする場合や、入所申込者に対して適切な便宜を供与することが困難な場合には、適切な医療機関や介護老人保健施設を紹介する等の適切な措置を速やかに講じることとします。
- 4 施設は、入所申込者の入所に際しては、その者の心身の状況や病歴等の把握に努めます。
- 5 施設は、入所者の心身の状況、置かれている環境等に照らし、入所者が自宅で日常生活を営むことができるか否かを検討します。検討に当たっては、居宅介護支援事業者及び施設、家族間で協議します。
- 6 施設は、居宅での日常生活が可能と認められる入所者について、本人及びその家族の要望、退所後に置かれる環境等を勘案し、円滑な退所のための援助を行います。
- 7 施設は、入所者の退所に際しては、居宅介護支援事業者に対する情報の提供や、その他保健サービスや医療サービス及び福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めます。

第6章 サービス

第13条 (施設サービス計画の作成)

施設の管理者は、介護支援専門員に、施設サービス計画の作成に関する業務を担当させるものとします。

- 2 施設サービス計画の作成を担当する介護支援専門員（以下、「計画作成介護支援専門員」という。）は、施設サービス計画の作成に当たっては、居宅介護ケアプランを基に3泊以上の入所者に対し適切な方法により、入所者についてその有する能力や置かれている環境等の評価を通じて現に抱える解決すべき課題を明らかにし、入所者が自立した日常生活

活を営むことができるように支援する上で解決すべき課題を把握しなければなりません。

- 3 計画作成介護支援専門員は、入所者やその家族の希望及び入所者について把握した課題に基づき、施設サービス計画の原案を作成します。原案は、他の従業者と協議のうえ作成し、サービスの目標とその達成時期、サービスの内容、サービスの提供の上で留意すべき事項を記載します。
- 4 計画作成介護支援専門員は、施設サービス計画の立案について入所者及び家族に説明し、同意を得ます。
- 5 計画作成介護支援専門員は、施設サービス計画の作成後においても、他の従業者との連絡を継続的に行い、施設サービス計画の実施状況を把握します。

第14条（サービスの取り扱い方針）

施設は、入所者の要介護状態の維持、もしくは改善を図り、自立した日常生活を営むことができるよう支援を行うことで、入所者の心身の機能の維持、回復を図り、もって入所者の生活機能の維持、又は向上を目指し、入所者の意欲を喚起しながら支援します。

- 2 サービスを提供するに当たっては、入所者の心身の状況等について把握するとともに、サービス内容の確認を行います。
- 3 施設は、サービスを提供するに当たって、その施設サービス計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう、配慮して行います。
- 4 施設は、サービスを提供するに当たって懇切丁寧を旨とし、入所者又はその家族に對し、処遇上必要な事項について理解しやすいよう説明を行います。
- 5 施設は、サービスを提供するに当たって、入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護するために緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束等は行いません。また、身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録します。
- 6 施設は、自らその提供するサービスの質の評価を行い、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護の評価を常に見直すことで改善を図ることとします。

第15条（介護の内容）

介護に当たっては、入所者の心身の状況に応じ、入所者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう適切な技術をもって行います。

- 2 施設は、1週間に2回以上、適切な方法により入所者を入浴させ、また清拭を行います。
- 3 施設は、入所者の心身の状況に応じ、適切な方法により、排泄の自立について必要な援助を行います。
- 4 施設は、おむつを使用せざるを得ない入所者については、おむつを適切に交換します。
- 5 施設は、褥そうが発生しないように努めます。
- 6 施設は、前各項に規定するものの他、離床・着替え・整容等の介護を適切に行います。
- 7 施設は、常時1人以上の常勤の介護職員を介護に従事させます。
- 8 施設は、入所者の負担により、従業者以外の者による介護を受けさせません。

第16条（食事の提供）

食事の提供は、栄養並びに入所者の身体状況・嗜好等を考慮したものとし、適切な時間に行うこととします。また、入所者の自立支援に配慮して、可能な限り離床して食事ができるように努めます。

第17条（送迎）

（介護予防）短期入所生活介護事業所の利用者の入退所時に際し、利用者の希望に応じて自宅等への送迎サービスができる地域は、別紙（石巻圏域町名・字名一覧表）に掲げる地域のうち○印を付した地域とします。

第18条（相談及び援助）

施設は、常に入所者の心身の状況やその置かれている環境等の的確な把握に努め、入所者又はその家族に対して、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言やその他の援助を行います。

第19条（社会生活上の便宜の供与等）

施設には、教養娯楽設備等を備えるほか、適宜入所者のためにレクリエーションの機会を設けます。

- 2 施設は、入所者が日常生活を営むのに必要な行政機関等に対する手続きについて、入所者又はその家族が行うことが困難である場合は、その同意を得て代行します。
- 3 施設は、常に入所者の家族との連携を図り、入所者と家族の交流等の機会を確保するよう努めます。

第20条（機能訓練）

施設は、入所者の心身の状況等に応じて、日常生活を営む上で必要な機能の回復又は維持するための訓練を実施します。

第21条（健康管理）

施設の看護職員は、必要に応じて健康保持のための適切な措置をとります。

第22条（利用料及びその他の費用）

サービスを提供した場合の利用料の額は、厚生労働大臣が定める基準によるものとし、当該指定（介護予防）短期入所生活介護が法定代理受領サービスであるときは、介護保険法による介護報酬の告示上の額とします。

- 2 施設は、法定代理受領サービスに該当するサービスを提供した場合には、その入所者から利用料の一部として、当該指定（介護予防）短期入所生活介護に係る介護サービス費用基準額から施設に支払われる介護サービス費の額を控除して得た額の支払いを受けるものとします。

- 3 施設は、法定代理受領サービスに該当しないサービスを提供した場合には、入所者から支払いを受ける利用料の額と、厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額との間に、不合理な差額が生じないようにします。
- 4 施設は、前2項のほか、次に掲げる費用を徴収します。
 - (1) 食事、おやつの提供に要する費用
 - (2) 居住に要する費用
 - (3) 理美容代
 - (4) 居室電気利用料（携帯電話・ラジオ・テレビ等）
 - (5) その他、指定（介護予防）短期入所生活介護において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用で、入所者が負担することが適當と認められるもの
- 5 サービスの提供に当たって、入所者又はその家族に対して、サービスの内容及び費用について説明し、入所者又はその家族の同意を得ます。

第23条（利用料の変更等）

施設は、介護保険法関係法令の改正等並びに経済状況の著しい変化その他やむを得ない事由がある場合は、前条に規定する利用料を変更することができます。

- 2 施設は、前項の利用料を変更する場合は、あらかじめ、入所者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用を記した文書により説明し、同意を得るものとします。

第7章 留意事項

第24条（日課の励行）

入所者は、管理者や医師、生活相談員、看護職員、介護職員、機能訓練指導員などの指導による日課を励行し、共同生活の秩序を保ち、相互の親睦に努めることとします。

第25条（面会時間と閉館時間）

面会時間は、原則9時～19時までとします。また、閉館時間は、19時とします。

第26条（喫煙）

施設内は、全面禁煙となります。

第27条（飲酒）

飲酒は、施設内の所定の場所及び時間に限ります。それ以外は禁酒となります。

第28条（外出及び外泊）

入所者が外出・外泊を希望する場合には、所定の手続きが必要となります。

第29条（健康保持）

入所者は、健康に留意するものとし、施設で行う健康診断は、特別の理由がない限り受診しなければなりません。

第30条（衛生保持）

入所者は、生活環境の保全のため、施設内の清潔、整頓、その他環境衛生の保持にご協力頂きます。

第31条（禁止行為）

入所者は、施設で次の行為をしてはいけません。

- (1) 宗教や信条の相違などで他人を攻撃し、又は自己の利益のために他人の自由を侵すこと。
- (2) けんか、口論、泥酔などで他の入所者等に迷惑を及ぼすこと。
- (3) 施設の秩序、風紀を乱し、安全衛生を害すること。
- (4) 指定した場所以外で火気を用いること。
- (5) 故意に施設もしくは物品に損害を与える、又はこれを持ち出すこと。

第32条（入所者に関する市町村への通知）

入所者が次の各号のいずれかに該当する場合には、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知します。

- (1) 正当な理由なしにサービス利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を増進させたと認められるとき。
- (2) 偽りその他不正行為によって保険給付を受け、又は受けようとしているとき。

第8章 職員の服務規程と質の確保

第33条（職員の服務規程）

従業者は、介護保険関係法令及び諸規則、個人情報保護法を遵守し、業務上の指示命令に従い自己の業務に専念します。服務に当たっては、協力して施設の秩序を維持し、常に以下の事項に留意します。

- (1) 入所者に対しては、人権を尊重し、自立支援を旨とし、責任を持って接遇する。
- (2) 常に、健康に留意し、明朗な態度を心がける。
- (3) お互いに協力し合い、能率の向上に努力するよう心がける。

第34条（衛生管理）

施設は、入所者の使用する食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講ずるとともに、医薬品及び医療機器の管理を適切に行うこととする。

2 施設において、感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

- (1) 施設における感染症又は食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会をおおむね3月に1回以上開催するとともに、その結果について、職員に周知徹底を図る。
- (2) 施設における感染症の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。
- (3) 施設において、職員に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的に実施する。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順に沿った対応を行う。

第35条（職員の質の確保）

施設は、職員の資質向上のために、その研修の機会を確保します。

第36条（個人情報の保護）

施設及び職員は、業務上知り得た入所者又はその家族の秘密を保持することを厳守します。

- 2 施設は、職員が退職した後も、正当な理由なく、業務上知り得た入所者又はその家族の秘密をもらすことのないよう、必要な措置を講じなければなりません。
- 3 施設は、関係機関、医療機関等に対して、入所者に関する情報を提供する場合には、あらかじめ文書により入所者の同意を得ることとします。

第9章 緊急時、非常時の対応

第37条（緊急時の対応）

施設は、サービス提供を行っているときに、入所者の病状の急変、その他緊急事態が生じたときは、速やかに主治医又は施設が定めた協力医療機関に連絡するとともに、管理者に報告する。また、主治医への連絡が困難な場合は、救急搬送等の必要な措置を講じるものとする。

第38条（事故発生時の対応）

施設は、事故の発生又はその再発を防止するため、次の各号に定める措置を講じるものとする。

- (1) 事故が発生した場合の対応、次号に規定する報告の方法等が記載された事故発生の防止のための指針を整備する。
- (2) 事故が発生した場合又はそれに至る危険性がある事態が生じた場合に、当該事実が報告され、その分析を通じた改善策を従業者に周知徹底する体制を整備する。
- (3) 事故発生の防止のための委員会及び従業者に対する研修を定期的に行う。

- (4) 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を設置する。
- 2 施設は、入所者に対するサービスの提供により事故が発生した場合は、速やかに、市町村、入所者の家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じることとする。
- 3 施設は、前項の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録するものとする。
- 4 施設は、入所者に対するサービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行うものとする。

第39条（非常災害対策）

- 施設は、非常災害時においては、入所者の安全第一を優先し、迅速適切な対応に努めます。
- 2 非常災害その他緊急の事態に備えて、防災及び避難に関する計画を作成し、入所者及び従業者に対し周知徹底を図るため、年4回以上（防災・水害・原発）避難、その他必要な訓練等を実施します。

第40条（業務継続計画の策定等）

- 施設は、感染症や非常災害の発生時において、入所者に対する指定短期入所生活介護及び指定介護予防短期入所生活介護の提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。
- 2 施設は、職員に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的に実施するものとする。
- 3 施設は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

第10章 その他

第41条（地域との連携）

施設の運営に当たっては、地域住民又は住民の活動との連携や協力をを行うなど、地域との交流に努めます。

第42条（勤務体制等）

- 施設は、入所者に対して適切なサービスを提供できるよう、職員の体制を定めます。
- 2 入所者に対するサービスの提供は、職員によって行います。ただし、入所者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではありません。
- 3 施設は、職員の資質向上のための研修の機会を設けます。

第43条（記録の整備）

施設は、入所者に対するサービスの提供に係る諸記録を整備し、その完結の日から5年間保存するものとします。

第44条（苦情処理）

施設は、入所者からの苦情に迅速にかつ適切に対応するため、苦情受付窓口の設置や第三者委員を選任するなど必要な措置を講じます。

- 2 施設は、提供するサービスに関して、市町村からの文書の提出・提示の求め、又は市町村職員からの質問・照会に応じ、入所者からの苦情に関する調査に協力します。市町村からの指導又は助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を報告します。
- 3 施設は、サービスに関する入所者からの苦情に関して、宮城県国民健康保険団体連合会の調査に協力するとともに、宮城県国民健康保険団体連合会からの指導又は助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を行い報告します。

第45条（協力医療機関等）

施設は、入院等の治療を必要とする入所者のために、あらかじめ協力医療機関を定めておきます。

第46条（掲示）

施設内の見やすい場所に、運営規程の概要、職員の勤務体制、協力病院、利用料その他サービスの選択に資する重要事項を掲示します。

第47条（居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止）

施設及び従業者は、居宅介護支援事業者又はその従業者に対して、要介護被保険者に施設を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を供与してはなりません。

- 2 施設及び従業者は、居宅介護支援事業者又はその従業者から、施設からの退所者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を收受してはなりません。

第48条（身体拘束）

施設は、入所者に対する身体的拘束その他行動を制限する行為を行わない。ただし、当該入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合には、身体拘束の内容、目的、理由、拘束の時間、時間帯、期間等を記載した説明書、経過観察記録、検討記録等記録の整備や適正な手続きにより身体等の拘束を行う。

- 2 施設は、身体的拘束等の適正化を図るため、次に掲げる措置を講じる。
 - (1) 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回以上開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図るものとする。
 - (2) 身体的拘束等の適正化のための指針を整備する。
 - (3) 介護職員その他の従業者に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に実施する。

第49条 (虐待の防止のための措置に関する事項)

- 施設は、虐待の発生又はその再発を防止するため、以下の措置を講じる。
- 虐待の防止のための対策を検討する委員会を設置し定期的に開催するとともに、その結果について、職員に周知徹底を図る。
- 2 虐待の防止のための指針を整備する。
 - 3 職員に対し、虐待の防止のための研修を定期的に開催するために研修計画を定める。
 - 4 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置く。
 - 5 施設は、サービス提供中に、当該施設職員又は養護者（入所者の家族等高齢者を現に養護する者）による虐待を受けたと思われる入所者を発見した場合は、速やかに、これを市町村に通報するものとする。

第50条 (ハラスメント防止)

施設は、適切な施設サービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であって業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

第51条 (その他)

この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は社会福祉法人つづじ会と施設の管理者との協議に基づいて定めるものとします。

- | | |
|----|------------------------|
| 附則 | この規程は、平成24年9月1日から施行する。 |
| 附則 | この規程は、平成26年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規程は、平成27年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規程は、平成28年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規程は、平成29年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規定は、平成31年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規定は、令和2年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規定は、令和3年4月1日から施行する。 |
| 附則 | この規定は、令和6年4月1日から施行する。 |